

英語版薬剤情報提供書や翻訳アプリを用いた外国人患者対応に対する薬局従業員の意識変化



◎三角孔史郎¹⁾, 三角明¹⁾, 濱島弘喜¹⁾, 邑瀬誠¹⁾, 深津英人¹⁾

1) 株式会社杏林堂薬局

目的

日本に在留している外国人は年々増加の一途をたどっている。母国語が英語以外の言語である在留外国人の比率は非常に高く、日本語と英語の双方が得意ではない外国人患者への服薬指導は大きな課題となっている。また現在でも、指差し会話ツール等を活用した服薬指導は可能だが、記載項目が限られており十分な量の服薬指導ができていないのかは重要な課題である。

そこで、外国人患者に対し英語で記載された薬剤情報提供書(以下、英語薬情)の印刷や翻訳アプリを用いた服薬指導を薬局従業員が適正に実施するためのフローを構築し、それに伴う薬局従業員の意識の変化を評価した。また、翻訳アプリを薬局で使用する際の翻訳精度も調査した。

方法

方法1 英語薬情の印刷/翻訳アプリ使用フローの構築による薬局薬剤師の意識の変化

調査対象

志太・榛原エリア17店舗の薬剤師、調剤事務(n=85)

調査期間

2024年5月20日～7月15日

使用したツール

- 以下の質問を追加した英語、ポルトガル語の問診票と、既存患者やOTC接客時用の質問票

- ・ 英語薬情を希望するか。
- ・ 薬の説明に翻訳アプリの使用を希望するか。
- ・ 普段使用する言語は何か。

- レセプトシステムPharnesを用いた英語薬情の発行機能

- Google翻訳

実施したフロー

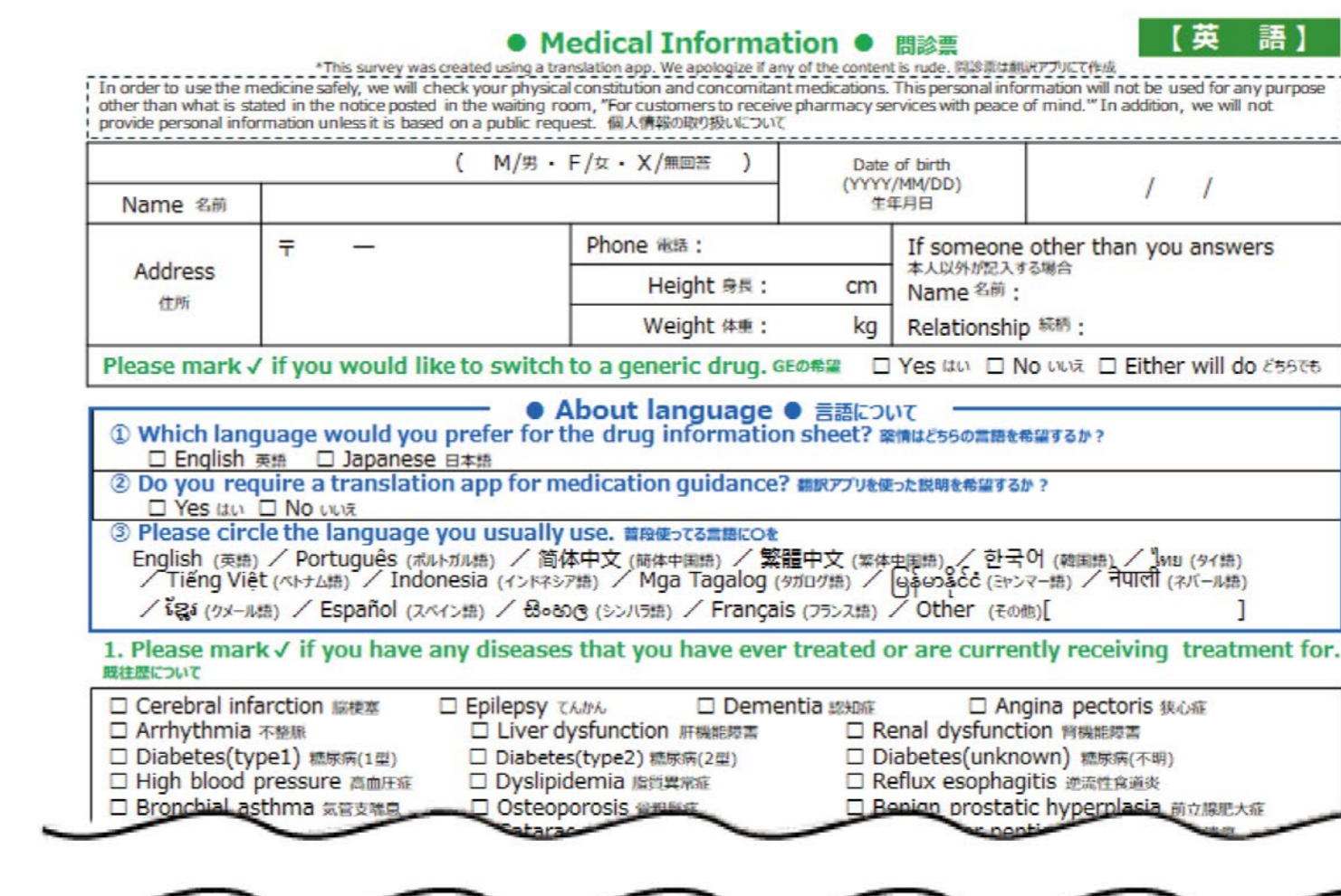
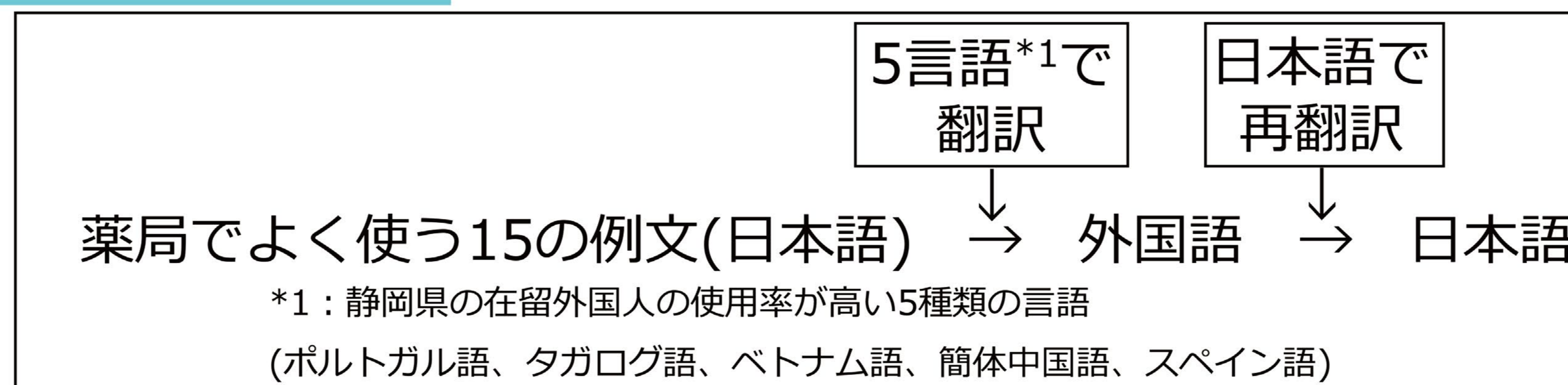


図1 新規作成した問診票

フロー開始から0、8週の時点において、外国人対応への意識について以下の4つの質問を用いて調査した。各質問は1～10までの10段階で回答の集計を行った。

- 外国人対応に自信があるか。
- 日常的に翻訳アプリを使用しているか。
- 日本人に対する説明量と比べて外国人に対する説明量はどのくらいか。
- 外国人に対する説明が正確に伝わっていると感じるか。

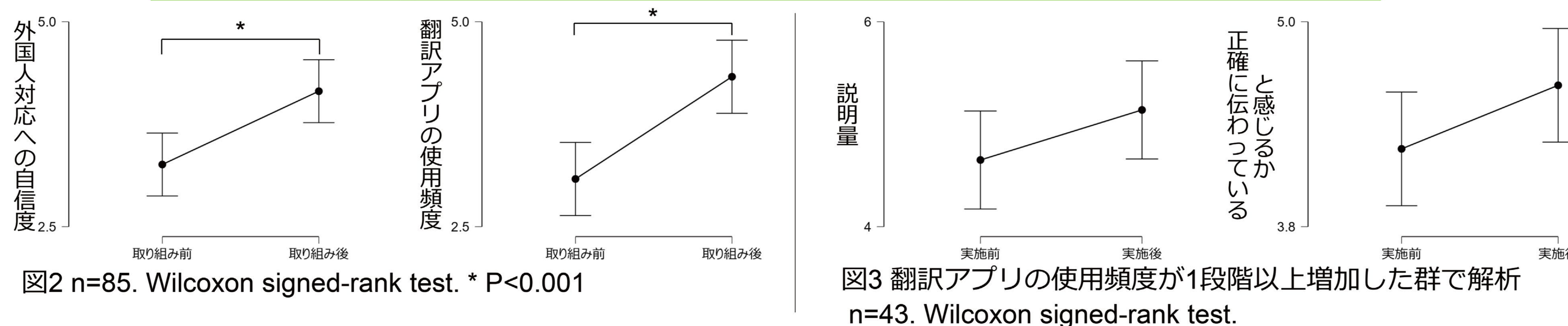
方法2 Google翻訳の翻訳精度調査



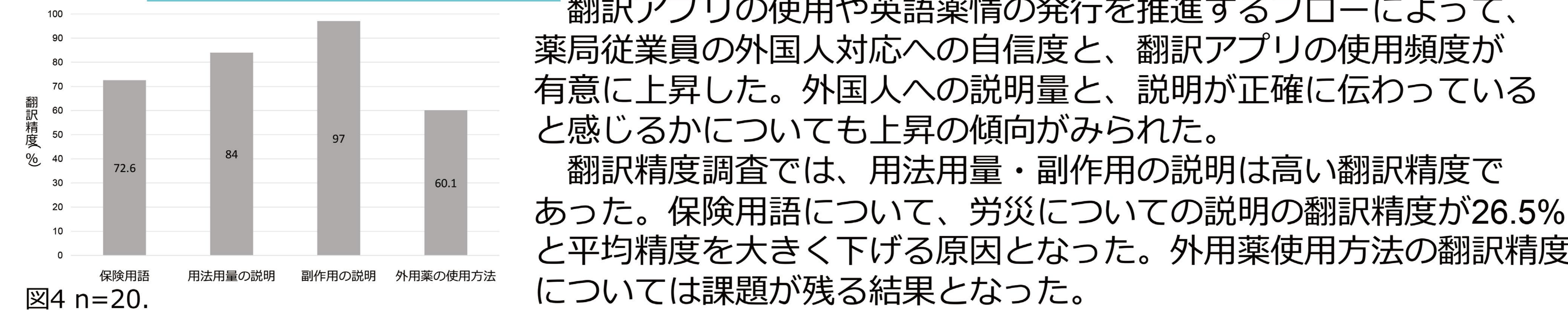
上記の方法で出力されたGoogle翻訳文を、日本人の医療従事者10名、非医療従事者10名がそれぞれ0～2点で評価した。

結果

結果1 英語薬情の印刷/翻訳アプリ使用フローの構築による薬局薬剤師の意識の変化



結果2 Google翻訳の翻訳精度調査



考察

薬局従業員が服薬指導において翻訳アプリを使用することによって、外国人対応への自信度が上昇し、説明量が増え、より正確な情報を伝えられるようになる可能性が示唆された。また、翻訳アプリの精度については十分に留意する必要があるが、服薬指導において特に説明頻度の高い用法用量・副作用の説明については高い精度であることが明らかになった。

今後の展望として、英語・ポルトガル語以外の問診票・質問票の作成を行うとともに、今回課題が見つかった外用薬使用法の外国語指導せんを作成することでより質の高い外国人対応を目指す。

本演題に関連して、開示すべきCOI関係にある企業などはありません